

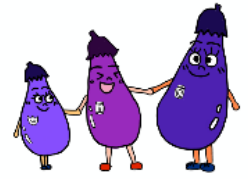
南っ子だより^{2号}

飽田南小学校だより

令和7年5月2日(金)

文責:松永 和宏(校長)

家庭訪問期間が終了しました。お忙しい中、職員の訪問に時間を割いていただき、ありがとうございました。短い時間の訪問でしたので、まだまだ話足りないことなどあるかもしれません。そんな時は学校まで遠慮なく連絡をお願いします。



心と心をつなぐあいさつ

学校を回っていると、2年生が道德の授業で「あいさつ」について考えていました。こんな内容でした。

「気持ちのいいあいさつって、どういうあいさつなのかな」と先生から問われ、「大きな声で、あいさつをすることなのかな。」と考えていた「わたし」。

車に乗っているときお父さんが、横断歩道で待っていた男の子を車を止めて渡します。渡り切ったあと、男の子が車に向かって頭を下げ、歩いていく様子を見て、お父さんが言いました。

「気持ちのよいあいさつだったね。」

わたしが、「えっ、声を出してあいさつしていないのに？」

と聞くと、お父さんが言いました。

「声を出すことだけが、大切なのかな。」

この言葉の意味を考えた私は、翌日、先生の方をきちんと見て、背筋をびんと伸ばし、

「おはようございます。」

と言って、しっかりお辞儀をしました。……

2年2組のこどもたちも「気持ちのいいあいさつってなんだろう。」と一生懸命考えていました。

そのあと、1年2組へ授業参観。「あっ、校長先生だ。」「なんで来たの?」といった声がかかる中、一人の子がすたすたすたっと私のところに近づいてきたかと思うと、頭が膝につくくらい勢いよく下げて

「校長先生、おはようございます!」

と元気な声であいさつしてくれました。2年生の道德の授業を聞いていたわけでもないのに、教科書に出てきた「わたし」のようで、とてもすがすがしくなりました。

朝から交通指導のため、私は正門前の横断歩道のところに立つことが多いです。交通量は多いのですが、学校前ではスピードを落として下さる車が多いです。そして私を見かけると、運転中にもかかわらず会釈をしてくださる方もいて、とてもありがたく、温かな気持ちになります。

もう一つエピソードを。

5月1日の朝、6年生のゆまさんが1週間ぶりに登校してきました。都甲先生がバギーを押してきたので、「ゆまさん、おはよう。久しぶりだね。」

と声をかけると、首をこちらに動かして視線を向け、目を合わせてくれました。

都甲先生が、

「首を動かした!(校長先生に)あいさつを返した。」

と嬉しそうに話しかけていました。

気持ちのよいあいさつをたくさんもらえて、とてもありがたいです。あいさつは、いろいろな型がありますが、大事なことは相手にしっかりと伝えるという他者意識、他者尊重が大切だということ子どもたちから、地域から改めて学ぶことができました。